

ワクチン問題に対するフェイクニュースの拡散と ファクトチェック機関の対応への検証

木村祥吾

私たちが生きる現代社会は、2000年以降に広がったインターネットやSNSスマートフォンの普及により、情報入手が極めて容易な環境となった。しかし、ネットの情報の中には、意図的に仕組んだ嘘の情報や根拠のない噂など「フェイクニュース」や「誤情報」が多く含まれ、正誤判断が極めて難しい問題を生んでいる。本稿では新型コロナウイルスのワクチン問題に焦点を当てて、フェイクニュースの拡散傾向を調査した。検討の結果、インターネットの発達に伴うスマートフォンの保有率やSNS普及率の増加によって、フェイクニュースの拡散スピードと範囲が広がったことが明確になった。また、Twitter(現 X)をはじめとするSNSが主な媒体となる形でフェイクニュースやデマなどが流通している実態が、ファクトチェック機関が有するデータに対する調査などから判明した。